

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

公表:令和2年2月14日

事業所名 多機能型発達支援事業所メグシィ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			個室を完備し療育内容に合わせて使用していません。屋外活動も多く活動内容によって適切に対応しています。
	2	職員の配置数は適切である	○			適切な資格を有した職員を配置し、職員がチームで指導に当たっています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○	室内はバリアフリーですが、玄関には段差があります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		他教室と日々の振り返りを共有しています。PDCAサイクルについての勉強会も実施しました。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		定期開催の保護者会等でも要望の聞き取りを行い、改善を図れるように努めています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			結果だけでなく、改善策や将来的ビジョンについても公開するように努めています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		連携機関から総合的な評価をいただく機会がありますが、今後は教室ごとに細かく評価していただく機会を設けたいと思っています。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			積極的に外部研修に参加しています。また、職員間で勉強会を開き、専門性を高める努力をしています。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			計画に客観性を持たせられるように、他教室の担当者とは必ず意見交換を行っています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			利用者一人一人の特性把握や能力に関する情報を得るために、有効活用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			教室内チームの他、他教室とも連携しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			PDCAを活用し、チームで連携をしながら工夫を図っています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			長期休暇中は社会科体験も取り入れ、課題を決めて支援しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動においても各自の特性や個性に寄り添ったサービスを実行しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			支援開始前に利用人数や支援内容、役割分担を確認しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			口頭での打ち合わせだけでなく記録に残し、正確に共有することを徹底しています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			各自の様式に正確な記述を行っています。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的なモニタリングの他、必要があればその都度連携を取り、不定期でも開催しています。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			複数のガイドラインの主要ポイントを反映しながら、日々の支援に当たっています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議には必ず2名以上の職員が参加しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		大きな問題に発展する前に小さな変化も共有できる関係性を構築している。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現在必要な子はいないが、各医療機関主治医との連携は取れています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		複数の保育所幼稚園等との情報交換の日程調整は容易ではないが、相互理解には欠かせないことと考え、きちんと実施しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	まだ実績はないですが、就労支援サービスを行う予定です。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じきめ細かな意見交換を行っています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	近隣の施設と連携を図りたいとは思っていますが、利用児の特性を踏まえながら、慎重に検討を進めたいと考えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	協議会と連携する機会は少ないですが研修会等には積極的に参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時の聞き取りの他、定期的な保護者情報交換会の開催等により、共通理解を深める努力をしています。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		困りごと相談の他、家庭内で取り組める療育の指導を行っています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		パンフレットやホームページ等で詳細を公開しています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		父母どちらか一方的に肩入れすることのないよう、総合的な情報をもとに、客観的な視点で提言しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者の情報交換会を実施しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		迅速に対応できるように職員全体で早期に対応することを徹底しています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		保護者への依頼や事業内容に関わる所連絡は、確実に伝えるよう書面にて行っています。定期的に会報も発行しています。
	35	個人情報に十分注意している	○		外部に漏出しないように管理しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子供と意思疎通する機会は持っていますが、保護者ともヒアリングの機会をさらに増やしていきたいです。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	地域住民の積極的な介入はリスクを伴うため、メリット、デメリットを十分に見極め対応していきたいと思っています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	防犯マニュアル等の全公開は難しいですが、公開できる範囲できちんと公開していきたいと思えます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月に一度、定期的に防災訓練を実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止の講習会に積極的に参加しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	様々なケースや時代背景に沿ったガイドラインを策定できるよう、PDCAを繰り返しています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		少しでも心配なご家庭は、医師による指示書を、家族からの申し出をもとに、おやつ等に反映するようにしています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		気づいた時点ですぐに記録し「ヒヤリ」を繰り返さないように些細な事例でも全事業所で共有しています。